

## 2011 年度秋季大会の告示

### I. 大会の案内

1. 期 日  
2011 年 11 月 16 日（水）～18 日（金）
2. 会 場  
名古屋大学東山キャンパス  
名古屋市千種区不老町  
<http://www.nagoya-u.ac.jp/>
3. 研究発表  
気象学に関する学術成果の研究発表を募集します。研究発表の詳細につきましては下記「IV. 研究発表要領」をご参照下さい。
4. 大会日程  
大会は以下の日程で行われる予定です。  
第 1 日（11 月 16 日）  
午前：口頭  
午後：口頭，ポスター  
第 2 日（11 月 17 日）  
午前：口頭  
午後：授賞式，受賞記念講演，シンポジウム，懇親会
5. シンポジウム  
大会第 2 日（11 月 17 日）の午後に開催予定です。テーマは「理学と工学の融合が切り開く新しい都市環境学」です。
6. 懇親会  
大会第 2 日（11 月 17 日）の夕刻に，名古屋大学豊田講堂 1 階ホワイエにて開催予定です。
7. 大会ウェブサイト【2011 年 7 月 5 日（火）開設予定】  
本大会では，大会ウェブサイトを，2011 年 7 月 5 日（火）より開設する予定です。講演申込み受付や大会プログラムなどの詳細につきましては，こちらをご参照下さい。URL 等につきましては，気象学会ホームページ（<http://www.soc.nii.ac.jp/msj/>）をご参照下さい。

### II. 大会参加手続き

1. 講演を行う場合の参加申込方法  
天気本号掲載の「日本気象学会 大会発表規定」を熟読の上、講演の申し込みを行って下さい。  
原則として大会ウェブサイト上からオンラインで行って下さい。 オンラインで大会予稿原稿を送付できない場合や、クレジットカードによるオンライン決済ができない場合など、止むを得ない事情がある場合は、郵送による申込を受け付けます。  
なお、大会参加登録・参加費支払済みであることを講演申込資格とさせていただきますのでご注意下さい。
- 1.1 オンラインによる申込
  - ・締切：2011 年 8 月 2 日（火）15 時（日本時間）
  - ・大会ウェブサイト参照し、指示に従って申し込みをして下さい。
  - ・大会ウェブサイト上で最初に個人情報と ID・パスワードの登録を行います（前回の ID・パスワードはそのまま利用することはできません。お手数ですが、改めて個人情報と ID・パスワードの登録を行って下さい）。この ID とパスワードによって登録システムにログインし、大会参加登録・講演申込・大会予稿送付・大会参加費決済などを行います。

す。

- ・ 個人情報とID・パスワードの登録は講演者本人が行ってください。登録された個人情報と異なる氏名・所属での講演申込はできません。
- ・ 講演申込の前に、予め大会参加登録と大会参加費の払込(クレジットカード決済)を行ってください。大会参加登録と大会参加費の決済が行われていない場合、講演申込は受け付けられません。
- ・ オンライン決済の際には、個人情報登録者本人以外の名義のクレジットカードも使用可能です。
- ・ 大会予稿原稿もウェブサイトよりご送付下さい。ファイル形式はPDF(容量の上限は1MB)に限りです。
- ・ 講演に関する要望がある場合は所定の欄に記入して下さい。要望事項は、プログラム編成時に可能な限り考慮するように努めますが、諸事情により要望に沿えない場合があるのでご了承下さい。なお、口頭発表の発表日時の希望は原則として受け付けません。また個別の要望についての回答は致しませんので、併せてご通知おき下さい。
- ・ 講演申込み締め切り(8月2日(火))までは、ウェブサイト上において、一旦申し込んだ講演申込の登録内容の修正や予稿原稿の差し替えなどを行うことができます。ただし講演のキャンセルはできません。
- ・ 締め切り後の講演申込や予稿原稿の差し替え等は受け付けません。

## 1.2 郵送による申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・ 締切: 2011年7月26日(火)必着  
(オンライン申込に比べて締切日が1週間早くなっています。ご注意ください。)
- ・ 以下の3点を講演企画委員会事務局(下記)までお送り下さい。
  - ① 大会予稿原稿
  - ② 講演者氏名(漢字とローマ字)、会員番号、講演種別、連絡先(住所・電話番号・E-mailアドレス)、講演題目、主・副キーワード、その他必要事項を書いたもの(様式は自由)
  - ③ 郵便振替払込受領証(次項参照)
 送付先:  
〒305-0052 茨城県つくば市長峰1-1

気象研究所予報研究部内

気象学会講演企画委員会事務局

(封筒の表に「講演申込」と朱書して下さい。)

- ・ 講演申込の前に、以下の要領に従って郵便振替によって大会参加費を納入して下さい。
  - 一口座番号は「00130-3-5958」、
  - 加入者名は「日本気象学会」です。
- － 「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。
  - ① 「2011年度秋季大会参加申込」と明記
  - ② 会員番号(非会員の場合は「非会員」と明記)
  - ③ 大会参加種別(講演者Aまたは講演者B)
  - ④ 大会参加費金額
  - ⑤ 懇親会費金額
  - ⑥ 合計金額
- － 「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。
- － 払込料金は本人負担でお願いします。

## 1.3 講演のキャンセルについて

- ・ 講演申込み後は、講演のキャンセルはできません。止むを得ず大会参加や発表を取り止める場合でも、すでに支払われた参加費・懇親会費は返却いたしませんのでご注意ください。
- ・ 講演者の都合が悪くなった場合の代理発表につきましては、柔軟に対応いたしますので講演企画委員会(kouenkikaku2011a@netsoc.jp)までご相談下さい。

## 2. 講演をしない(聴講のみ)場合の参加手続き

以下のいずれかの方法で参加費等を納入して下さい。事務負担軽減のため、なるべくオンライン(大会ウェブサイト)による事前登録をご利用下さい。

### 2.1 オンラインによる申込

2011年9月20日(火)までに大会ウェブサイトに参加登録し、参加費を払い込む(クレジットカード決済のみ)。

### 2.2 郵送による申込方法【事務負担軽減のため、なるべくオンライン申込をご利用下さい】

- ・ 2011年9月13日(火)までに、郵便振替で参加費を払い込む。
  - 一口座番号は「00130-3-5958」、

加入者名は「日本気象学会」です。

－「通信欄」に以下の項目を記入して下さい。

- ①「2011 年度秋季大会参加申込」と明記
- ②大会参加種別（聴講者）
- ③大会参加費金額
- ④懇親会費金額
- ⑤合計金額

－「払込人住所氏名」の欄に、住所・氏名・電話番号をもれなく記入して下さい。

－払込料金は本人負担をお願いします。

### 2.3 大会当日に会場で申込

当日会場で参加登録をして、参加費を現金で支払う（当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意ください）。

## 3. 参加費，懇親会費

### 3.1 大会参加費

・大会参加費（消費税込）は以下の表の通りです。

大会参加費		
種別	前納	当日
講演者 A	8,000 円	－
講演者 B	5,000 円	－
聴講者	3,000 円	4,000 円

・講演者の種別：

講演者 A：研究機関・大学に所属する講演者（ただし、学部生・院生は除く）

講演者 B：講演者 A に該当しない講演者

・講演件数が 2 件の場合も大会参加費は変わりません（講演件数による加算はありません）。

### 3.2 懇親会費

・懇親会費（消費税込）は以下の表の通りです。

・懇親会費はオンラインもしくは郵便振替で参加費と同時に前納することができます。また当日会場で支払うことも可能ですが、当日料金は前納と比べて割高となっていますのでご注意ください。

懇親会費		
種別	前納	当日
一般	5,000 円	6,000 円
学生	2,500 円	3,000 円

### 3.3 その他

・一旦支払われた参加費・懇親会費は返却いたしません。

・大会参加費・懇親会費の種別は、支払い時点での所属によって判断して下さい。一旦支払われたあとの所属変更などによる種別の変更はいたしません（追加の支払い請求や差額の払い戻しなどは行いません）。

・領収書は大会当日受付で発行させて頂く予定です。

・参加当日は、参加登録・決裁完了メールのプリントアウト等を持参いただけると、よりスムーズに受付を行うことが可能です。

## Ⅲ. 大会予稿原稿作成要領

### 1. 原稿サイズ・枚数

1 件あたり A4 判 1 枚とします。

### 2. 作成方法

大会ウェブサイトから申込みをする場合のファイル形式は PDF（容量の上限は 1 MB）とします。郵送する場合は A4 用紙に直接出力するか、別紙に作成した文書・図表を用紙に糊付けして下さい。

### 3. 印刷

原稿は B5 サイズに縮小されて白黒でダイレクト製版されます。階調のある写真や図は、明瞭度が落ちる場合がありますので作成時にはご注意ください。特に、カラーの写真や図は明瞭度が極端に落ちる場合がありますので、予めご承知おき下さい。

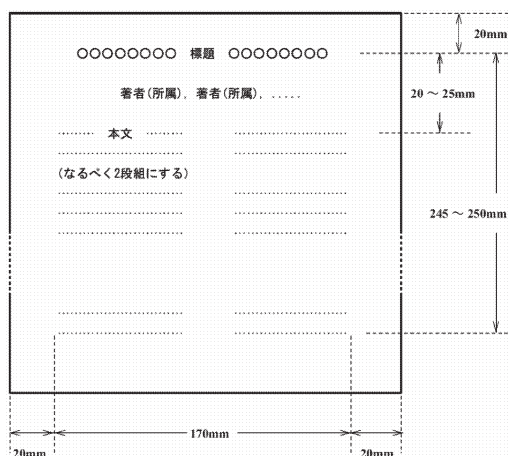
### 4. 配置（付図参照）

記載範囲は縦 250mm×横 170mm 以内とし、上部には 20mm の余白をとって下さい。最上段に講演題目、その下に著者と所属を書き、本文をその下につ

けて下さい。著者が複数の場合には講演者の左肩に\*をつけて下さい。講演題目から本文までの間隔は20～25mmとして下さい。本文は原則として2段組(左半分→右半分)にして下さい。

## 5. 著作権

大会予稿集に掲載された文章および図表の著作権は(社)日本気象学会に帰属します。



図：A4判用紙による大会予稿原稿の作成要領

## IV. 研究発表要領

### 1. 発表の種類

講演方法には、口頭発表(スペシャル・セッションを含む)とポスター発表の2種類があります。

### 2. 発表件数の制限

1 講演者あたりの発表件数は2件以内とします。ただし内容がほぼ同一と見なされるテーマでの2件の発表は認められません。この制限に抵触する申込があった場合には、講演企画委員会が適切に対応します。

### 3. 講演方法の選択について

講演方法(口頭/ポスター)につきましては講演申込時に選択できますが、申込件数や会場の都合等により希望通りにならない場合があることを予めご了承下さい。なお、講演申込時に講演方法の希望がない場合は、講演企画委員会の裁量で振り分けを行います。

### 4. 口頭発表の概要

口頭発表の講演時間は全て同一とします。1件あたりの講演時間は、口頭発表に配分された時間の総計を申込件数で割ったものを目安として講演企画委員会が決定し、大会プログラムに掲載します。

### 5. スペシャル・セッションの概要

- ・セッションの各講演の講演時間は世話人が決定し、大会プログラムに掲載します。
- ・セッションへの講演申込み締切日は一般講演と同じ(オンライン申込は8月2日(火)、郵送申込は7月26日(火))です。
- ・セッションに申し込まれた発表については、世話人が大会予稿原稿を審査して、当該セッションでの発表を認めるかどうかを判断します。
- ・セッションに申し込まれた発表が、世話人によって当該セッションに適さないと判断された場合には、一般発表に振り替えます。
- ・各セッションの詳細につきましては、「V. スペシャル・セッションのテーマと趣旨」をご参照下さい。

### 6. ポスター発表の概要

- ・ポスター発表の時間は1時間程度とします。ポスター発表の時間には他の行事は行われません。
- ・ポスターの掲示・撤去は、講演者の責任で行って頂きます。
- ・掲示スペースは縦168cm×横117cm程度です。なお、ポスターは大きな紙1枚に書く必要はなく、

小さい紙に分けて書いたものを当日並べて掲示しても構いません。

## 7. 講演における機器の使用について

- ・口頭発表（スペシャル・セッションを含む）につきましては、PC プロジェクターが使用できます。それ以外の機器は使用できません。
- ・PC プロジェクターの使用に当たっては、以下の点に留意して下さい。
  - －パソコンは各自でご準備下さい。会場にはプロジェクター及び接続ケーブルのみを準備します。
  - －セッション開始前の休憩時間などを利用して、必ず接続の確認を行っておいて下さい。接続に不安がある場合は、その際に会場係に申し出て下さい。
  - －突然の故障や接続の際のトラブルが発生した場合、座長の判断で発表順の繰り下げなどの対応をすることがあります。携帯用メディアによるバックアップファイルの準備など、トラブルへ

の備えは講演者自身で行って頂くようお願いいたします。

- ・ポスター会場での機器の使用を希望する場合は、機器の名称およびその使用方法を、講演申込み時に届け出てください。口頭発表への申し込みをする場合も、プログラム編成上の都合によりポスター発表に振替られた時に、機器を使用する可能性があれば同様に届け出てください。ただし会場の都合により、その要望が受け入れられる保証はありません。

## 8. その他

- ・大会プログラムは「天気」10月号及び大会ウェブサイトに掲載されます。
- ・口頭発表セッションにおける座長は、テーマごとに発表者の中から選ばれることが多くなっています。講演企画委員会が、座長候補者を選び、候補者へはその承諾に関する打診を行いますので、その際にはご協力願います。

## V. スペシャル・セッションのテーマと趣旨

スペシャル・セッションは、あるテーマに関心を持つ会員同士が、研究分野の枠を超えて交流する機会を設けるために、1988年から始まったものです。一般の大会発表と同様、会員はどなたでも講演申込できます。

本大会では以下の5件のテーマでスペシャル・セッションが行われます。

### 1. 「大気中の二酸化炭素観測手法の新たな展開とそのデータ利用」

**趣旨：**産業革命以来の大気中二酸化炭素（CO<sub>2</sub>）の増加は地球温暖化の主な要因である。地球温暖化の将来予測に重要な地域別のCO<sub>2</sub>フラックスとその変化のメカニズムについての理解は依然として不十分である。そのため、温室効果ガス観測技術衛星GOSAT「いぶき」による地球規模のCO<sub>2</sub>観測も行われるようになった。GOSATのCO<sub>2</sub>データ検証のために、地上高分解能フーリエ変換分光計（FTS）や航空機搭載非分散型赤外線分析計（NDIR）によ

る観測データが利用される一方、新しく差分吸収法ライダー（DIAL）や航空機搭載レーザー差分吸収分光計（LAS）、CO<sub>2</sub>ゾンデ、光スペクトラムアナライザー（OSA）など新たなCO<sub>2</sub>センサーも開発されつつある。このセッションでは、地上・航空機・衛星からのCO<sub>2</sub>の観測手法と観測誤差、観測データの解析方法やそれらのデータを利用した地域規模のCO<sub>2</sub>フラックスを求める手法などに関する発表を募集します。

**世話人：**内野 修（国立環境研究所）、長澤親生（首都大東京）、川上修司（宇宙航空研究開発機構）

### 2. 「地球温暖化に伴う台風変化の理解に向けて」

**趣旨：**将来予想される気候変化に伴い、台風の挙動がどのように変化するかについて関心が高まっている。最新の気候モデルによれば、地球温暖化に伴い、台風が強大化してスーパー台風が頻発したり、日本近海で発生する台風が増加すると予想する結果もある。将来の台風変化の理解のためには、

大循環モデルによる将来気候予測シミュレーションに加えて、既存データによる台風変化の注意深い解析研究や、高解像非静力学モデルによる台風の発生や構造変化に関するプロセス研究を進める必要がある。本分科会では、気候変化予測に伴う台風シミュレーション研究、台風のプロセス研究、および近年の台風変化に関する解析的研究等の発表を期待する。

**世話人:** 佐藤正樹(東京大学), 杉 正人(JAMSTEC), 坪木和久(名古屋大学), 大内和良(JAMSTEC)

### 3. 「東アジアモンスーンと黒潮 —中緯度大気海洋相互作用の再発見へ向けて—」

**趣旨:** 四方を海に囲まれた日本の気候環境とそれに根ざした日本各地の風土と文化。四季は極めて鮮明で、それが美しい日本の自然を作っている。一方では豪雨豪雪そして猛暑冷夏などの激しい気象もその特徴である。なぜ日本周辺において深刻な災害をもたらす程に激しい気象現象がおこるのだろうか。大規模スケールにおいては冬季東アジアモンスーン・梅雨と黒潮が交差する日本近海では活発な大気海洋相互作用が生じており、これまでに考えられてきた以上に気象擾乱活動に対して重要な役割を果たしている可能性が高い。数値モデルの高分解能化、衛星リモートセンシングの精密化、船舶・ブイ・Argo フロートなどの海洋観測技術の高度化によって、大気海洋相互作用研究に更なるブレイクスルーがもたらされる機会が間近に迫っている。本セッションでは、観測研究から、データ解析、数値シミュレーションに至る様々な手法に基づいた研究を気象ならびに海洋研究者から話題提供して頂きたい。スケールも、中小規模現象から大気大循環まで、そしてその長期変動まで、中緯度の大気海洋相互作用が関連するあらゆる現象を対象とする。討論を通して、中緯度大気海洋相互作用の新たなパラダイムの構築の一助にしたい。発見的要素も含め、予備的な研究報告や観測速報でも構わない。大学院生などの若手の発表も歓迎する。TOGA-COARE で生まれた気象・海洋研究者の研究交流を、また別の形で再開する意味でも、海洋研究者の積極的な申し込みも期待したい。

**世話人:** 立花義裕(三重大学大学院生物資源学研究

科), 川村隆一(富山大学大学院理工学研究部)

### 4. 「気象情報・知識の伝達・普及(Ⅲ)」

**趣旨:** 気象学は科学的研究、技術の進歩とその成果の応用が連続的であり、社会とのつながりが密接である。東日本大震災と原子力発電所の大事故は科学技術と情報の在り方に重要な課題を示した。気象技術の進歩とともに、情報が質・量ともに急速に充実し、竜巻や局地的大雨などで確率情報、画像情報が提供されている。しかし、局地的で短時間の極端現象では、行政の対応には限界があり、生命を守るためには住民が受け身ではなく自ら適切な判断をすることが求められる。このためには、防災情報を与えられるのではなく、自ら取得すること、現象と情報の内容を理解することが必要である。日本気象予報士会は気象庁と連携し「国民の安全安心に向けた知識の普及啓発活動」を推進している。昨年続き、気象情報の作成、伝達、関連知識の普及・訓練に携わる人々の、日ごろの研究成果が発表されることを期待している。

**世話人:** 奥語基宏(日本気象予報士会), 高井元治(名古屋地方気象台), 弘中秀治(宇部市防災危機管理課), 多々良秀世(日本気象予報士会), 難波良彰(日本気象予報士会), 関谷不二夫(日本気象予報士会), 白石晶二(日本気象予報士会), 岩田 修(日本気象予報士会)

### 5. 「放射性物質輸送モデルに関する現状と課題」

**趣旨:** 東日本大震災に伴い発生した福島第一原子力発電所からの放射性物質の大気中への拡散は、社会に大きな影響を及ぼした。このとき実際に放出された放射性物質がどのような経路で拡散していったのかをモデルにより考察することは、気象関連モデルの進歩と気象学の社会への貢献という意味で重要な課題である。しかしながら、モデルの目標でもある放射線量の計算には、通常の化学物質の移流拡散に考慮されるべき要素に加え、放射線雲からのガンマ線や沈着物からの放射なども考慮する必要があり、分析・解明しなければいけない要素は多い。これらの性質は放射性物質により異なり、またおきた事象との関連で長期・短期を区別した評価が必要であるが、それぞれ必要な拡散に関する知識も異なる。このような科学的観点

から、空間・時間スケールの異なる放射性物質輸送モデルの現状と問題点について整理し、観測結果をふまえて議論するための発表を期待します。

世話人：近藤裕昭（産業技術総合研究所），里村雄彦（京都大学），竹村俊彦（九州大学応用力学研究所），山澤弘実（名古屋大学），渡邊 明（福島大学）

## VI. 非会員の大会講演について

気象学会会員でない方は原則として大会講演を行うことはできません。しかしながら、短期滞在の外国人や他分野の研究者が気象学会において講演を行う場合を考慮して、講演企画委員会では以下の規定を満たすものに限り非会員が大会講演を行うことを認めています。

1. 共著者の中に会員が含まれていれば、非会員の

講演を認める（予稿に会員である共著者の氏名と所属を明記すること）。

2. ただし、スペシャル・セッションに関しては各世話人の判断にゆだねる。

なお、講演企画委員会としては、継続的に大会発表を行いたい人には会員になって頂くよう強く要請します。

## VII. 研究会活動への支援について

講演企画委員会では、大会期間中またはその直前・直後に会員が自主的に運営する研究会活動に対し、一般の会員が自由に参加できることを条件として、可能な支援をします。支援を希望する方は、次の事項を明記の上、講演企画委員会（E-mail: kouenkikaku2011a@metsec.jp）に申し込んで下さい。

申込期限：2011年8月2日（火）

- 記入事項：1. 会の名称とテーマ  
2. 代表者の連絡先  
3. 希望日時・開催場所  
4. 予想参加人数  
5. 希望する支援内容

## VIII. 大会期間中の保育支援について

大会実行委員会では、大会期間中の保育施設の斡旋を予定しております。詳細については大会ウェブ

サイトに掲載する予定です。

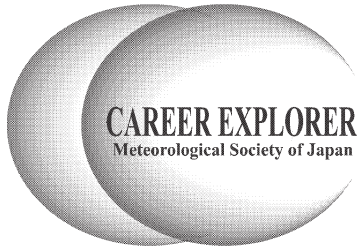
## IX. キャリアエクスペローラーロゴの試験的導入について

### 1. キャリアエクスペローラーロゴの趣旨

近年、社会問題化している若手・任期付研究者のキャリア形成をサポートするために、日本気象学会では、キャリアエクスペローラーロゴを2009年度秋季大会から試験的に導入しました。これは、広く学術に貢献する人材

の育成および活動支援の一貫として行うもので、会員が望ましいキャリア形成のために求職中の場合に、適職に出会うのをサポートします。（同様の取り組みが応用物理学会で2007年から行われています。）

## 2. キャリアエクスプローラーロゴ



大会予稿や講演資料の中でこれを表示することで自分が求職中であることを表明できます。カラーと白黒のロゴの電子データを学会ホームページから取得できます。

### 3. 使用方法

ポスドクを含む任期付研究者や学生で求職中の会員、またはそれに準ずる会員が講演する場合に、大会予稿および講演資料の中で、キャリアエクスプローラーロゴを使用できます。

1. 大会予稿：白黒ロゴを、講演タイトルの左側に、余白に

はみ出さないよう適度な大きさに挿入してください。

2. 口頭発表：発表資料の任意の場所に分かりやすく表示してください。
3. ポスター発表：講演題目付近の分かりやすい場所に表示してください。

### 4. 使用に関する注意

1. 日本気象学会およびその会員の主催する講演会においてのみ使用できます。
2. 講演会は学術的な講演・議論を目的に行われます。口頭発表の時間内は、求職・求人に関する議論はご遠慮ください。
3. ロゴは講演者本人の責任の下で使用してください。その使用により生じた如何なる利益・不利益に対しても、日本気象学会は一切責任を負いません。
4. ロゴ導入の趣旨および適切な使用方法を逸脱した使用は一切認められません。